

## 第1回学習時間調査の結果

今年度になって初めての学習時間調査がまとまったので、結果を見てみよう。(休日、予備校等を含む平均家庭学習時間)



**1年⇒1. 81時間** **ここ数年で最も学習時間が多い。**学習が習慣化している人が多いのは望ましいことだ。とはいえ、1時間未満の人が14%もいるのはいかなものだろうか。逆に、2時間以上の人も3割もいる。学習する人と、しない人の間で大きな差が生じてくるのではないかと心配だ。

**2年⇒1. 76時間 (2月: 1. 43時間)** 1年と同様、**ここ数年で最も学習時間が多い。**2~3時間の層が着実に増えており(1年4月21%⇒今回33%)、中だるみの心配もないようなので、この調子で頑張ってもらいたい。

**3年⇒3. 56時間 (2月: 1. 82時間)** **ここ数年で最も学習時間が多い。**順調に受験モードに入っているようなので、今後の楽しみだ。学習時間は一般に「1年⇒2時間、2年⇒3時間、3年⇒5時間」といわれるので、5時間に満たない人は奮起しよう!

**さて……**6月における学習時間の過年度推移を見てみよう。

(順に、26年⇒27年⇒28年⇒29年⇒30年⇒令和元年)

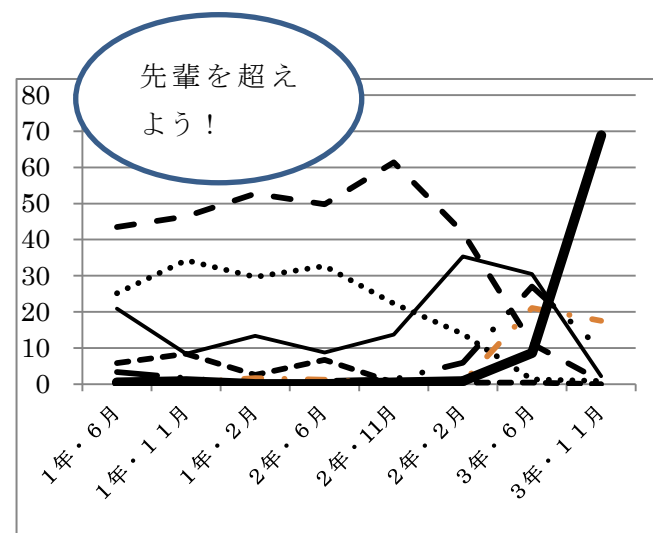
1年⇒[1. 48時間→1. 53時間→1. 5時間→1. 48時間→1. 64時間→1. 81時間]

2年⇒[1. 14時間→1. 22時間→1. 31時間→1. 34時間→1. 48時間→1. 76時間]

3年⇒[2. 42時間→2. 31時間→3. 3時間→2. 64時間→3. 23時間→3. 56時間]

全体として非常に良好なので、今度もこの調子でがんばってほしい。次回の調査は11月だが、その時には右のグラフのように**太字の5時間以上が一気に伸びていなければならない。がんばれ3年生!**

(細点線1時間未満、太点線1~2時間、細線2~3時間、太線5時間以上。36期のデータだが、ほぼ例年、このようになる)



先輩を超えよう! といわざるをえない。では、予備校を上手く使うにはどうすればいいのか。簡単にまとめてみよう。(再掲)

### ①教えてもらう」という意識を捨てろ!

以前にも書いたが、本当の学習とは「自らつかみとるもの」だ。教えてくれた知識はすぐに忘れてしまうが、努力してつかみとった知識は自分のものとして定着する。「予備校に行けばなんとかなる」「予備校で何とかしてもらおう」と思うのなら、その段階でもうダメだと思った方がいい。



### ②わかったつもりになるな! 通っていることで安心するな!

予備校の講義は確かにわかりやすいと思うが、それでわかったつもりになってはいけない。上にも書いたように、聞くだけでなく、自分からつかみとろうと努力しない限り、本物の知識にはならない。予備校に行っているだけで勉強した気になって安心しないこと。

### ③学校の授業を大切にすること! 予備校はピンポイントで利用すること!

予備校中心の生活をしてはいけない。必要な講座をピンポイントで受けたら、すぐに帰って自分の学習に集中した方がいい。予備校を重視して学校の授業をおろそかにする人は、往々にして失敗するものだ。



この件に関して『ドラゴン桜18巻』三田紀房(講談社)から引用してみよう。

登校風景を見ればその年の合格実績は、即座に判定できる。  
**有名進学校では高校3年の春から夏にかけて遅刻が多いと、その年の合格率は必ず悪くなるという。**  
 その理由は、生徒の生活が学校中心ではなく、自分中心になっているから。このタイプの生徒は他人から決められた授業や行事を軽視して行動する。  
 勉強も自学自習が中心で、夜遅くまで勉強して朝起きられない。授業では集中できず教師の話を受けない。その結果授業のポイントが押さえられず、試験に落ちる。だから 授業を遅刻せずしっかり受け、学校中心の生活を送っている子が受かるんだ。

## 連絡

### 3年生へ

様々な入試説明会に出てわかったことだが、昨年度は私大の定員厳格化を受けて、MAR C Hクラス以上の大学が敬遠されて、それ以下の大学に受験生が流れたらしい。その結果、中堅以下の大学が難化し、**MARCHクラス以上の大学の難易度には変化がなかった**という。定員厳格化も一段落したので、定員厳格化を気にして志望を下げる必要はなく、**これまで通り第一志望を貫いた方が懸命**だろう。

その他、以下も参考にしてほしい。

- ・国公立後期日程の欠席率が7年続けて上昇(57%)。
- ・国公立推薦・AOも募集数・志願者数増加。ただし、本校の場合4.0ないと厳しい。昨年は9名受験で3名合格。

### 1、2年生へ

センター試験と共通テストの違いについて、これまでも何度か述べてきたが、今回は英語についてまとめておく。

配点はセンター試験は、【筆記(リーディング)】200点、【リスニング】50点だが、共通テストでは【リーディング】100点、【リスニング】100点となる。

「指示文」も変わる。センター試験では「次の問いに答えよ」や「1~4のうちからひとつ選べ」など、日本語で指示されるが、大学入学共通テストの場合、基本的に日本語は使用されず、指示文や質問文なども英語で読み解く必要がある。

【リスニング】の指示文はどちらも日本語だが、会話文や本文の読み上げが2回あるセンター試験とは違い、大学入学共通テストは1回もしくは2回が混ざっている。また、プレテストでは、アメリカ英語やイギリス英語のみではなく、非母語話者の英語が流れる出題もあった。

「整序問題」にも違いがある。現在のセンター試験は、「単語を並べ替えて正しい文を作る」という「文構造の把握を問う問題」が出題されているが、大学入学共通テストでは「話の順番を並べ替えなさい」「起こった順に並べ替えなさい」といったように、話の筋を追えているかどうかという「読む力」を問う問題形式のみが出題される。

## 河合塾の問題

前回の難関私大説明会で、河合塾の方から問題が出された。みんなにわかるかな？

以下の4人のうち、合格しやすい生徒と合格しにくい生徒は誰？ A(成績がよい) B(普通) C(悪い)

- 1 英語B 数学(国語)B 理科(地歴)B 平均B
- 2 英語A 数学(国語)C 理科(地歴)B 平均B
- 3 英語C 数学(国語)A 理科(地歴)B 平均B
- 4 英語C 数学(国語)C 理科(地歴)特A 平均B



→答は右上

- (答)合格しやすい→1 バランスが取れていて、苦手科目がない。  
合格しにくい→4 苦手科目があり、バランスが取れていない。

## 閑話休題 S君から学んだこと。(今回は実話です)

私が学習塾講師になって間もない頃、S君という中学三年生の生徒が入塾してきました。無口で少し変わった子でした。授業の時にノートを出さない。数学の問題はテキストの余白で計算する。だから計算ミスばかりしているのです。

たまりかねた私は、ある時、彼を呼び出して言いました。

「ノートはどうした」しかし、S君は黙ったままうつむいています。次の日は必ずノートを持ってくるように約束させましたが、それでも彼はノートを持ってきませんでした。私はカチンときて思わず怒鳴りつけました。

「反抗する気やな。よし分かった。先生がノートをやるわ」私は五百枚ほどのコピー用紙の束を机にボンと投げ出しました。するとS君は「ありがとうございます」と御礼を言うのです。

夏になると、周囲の生徒からS君に対する苦情が寄せられるようになりました。彼がいつも着ているヨレヨレのTシャツとジーパンが臭うというのです。

この時も私は彼を呼んで毎日着替えるよう言いましたが、それからも服装は相変わらずでした。

私は保護者面談の時、S君の母親にこのことを話しておかなくてはと思いました。生活態度を改めるよう注意を促してほしいと訴え掛ける私に、母親は呟くように話を始めました。

「あの子は小学校の頃から、この塾に通ってK学院に進学するのがずっと夢だったんです。でも先生、大変申し訳ないのですが、うちにはお金がありません……」

S君が早くに父親を亡くし、母親が女手一つで彼を育て上げてきたことを知ったのはこの時でした。塾に通いたいというS君をなだめ続け、生活を切り詰めながらなんとか中学三年の途中で入塾させることができたというのです。

私はしばらく頭を上げることができませんでした。

S君に申し訳なかったという悔恨の念がこみ上げてきました。

そして超難関のK学院合格に向けて一緒に頑張ることを自分に誓ったのです。K学院を目指して早くから通塾していた生徒たちの中で S君の成績はピリに近い状態でしたが、この塾で勉強するのが夢だったというだけあって勉強ぶりには目を見張るものがありました。

→S君はどうなるのか。続きは次号で。

<https://www.chichi-ningenryoku.com/?p=1310> より